

## ソビエト連邦からロシアへ、そして…

第1次世界大戦の最中の1917年にロシア帝国で大きな政治転換（ロシア革命）があり、翌1918年に共産党を中心としたソビエト社会主義共和国連邦が成立しました。共産党の書記長に権力を集中させ、資本主義とはちがう社会主義の考え方で、会社経営者（資本家）や労働者のいない社会をめざして国づくりが進められました。第2次世界大戦後はアメリカとの対立の中で巨大な軍事国家となりましたが、その後徐々に経済は停滞し、同じ社会主義の道を歩んできた東ヨーロッパの国々で共産党政権が崩壊していく中で、1991年に当時の共産党書記長だったゴルバチョフは、ソビエト連邦に幕を引きました。

もともとソビエト連邦という名前のおり、ロシアなど15の共和国からなる連邦国家であったわけですが、それらの共和国は、ロシアという国土の大部分を占める大国と、ウクライナ、白ロシア（ベラルーシ）という人口も多く経済の発達した国々、バルト海沿岸のリトアニア、ラトビア、エストニア、カフカス山脈沿いのグルジア（ジョージア）、アゼルバイジャン、アルメニア、中央アジア地域のカザフ（カザフスタン）、トルクメン（トルクメニスタン）、ウズベク（ウズベキスタン）、タジク（タジキスタン）、キルギス（キルギスタン）、そしてルーマニアに接するモルドバ（モルダビア）に大別されていました。それぞれの共和国には民族や文化に基づくまとまりがあるからこそ、そのように分かれていたのですが、ソビエト連邦時代にはロシア人の各国への移住が進みました。シベリア・極東地域などロシア共和国でありながらロシア人が少ない地域にも、ロシア人が積極的に移住しています。

今回のウクライナへのロシア軍侵攻の8年前（2014年）に、実はウクライナの一部でありながらロシア人の多かったクリミア半島地域が、住民投票によってウクライナを離脱してクリミア共和国となったのち、ロシアに編入されるということがありました。この背景には、ウクライナの大統領がそれまでの親ロシア派から親欧米派にかわったということがありました。そして近年は、親ロシア派の勢力が強いウクライナ東部でテロなどの社会的緊張が高まり、今回のロシア軍の侵攻に至るのです。

この文章を書いている2月25日現在、侵攻が始まってまだ2日目ですが、すでにウクライナは軍事的に丸裸の状態になっています。ウクライナ軍はサイバー攻撃により混乱させられたあと、ミサイルと航空機による軍事拠点の空爆により、防衛力はほとんどなくなってしまいました。地上戦の様子については断片的に報道されますが、ウクライナ各地をロシア軍の車両が走っています。民間人の犠牲者も出ています。

ウクライナだけでなく、ソビエト連邦崩壊後、各共和国は選挙に基づく大統領制によって国づくりが進みましたが、ロシアとの距離の取り方には苦勞してきました。この状況をみて、おそらく他の共和国はロシアに背を向けたときにどのようなことになるかを考えていると思います。さらには世界各地にある軍事的緊張の高い地域の国々も、高度に電子化の進んだ軍事兵器による戦争の実相を垣間見て、備えをどうするか考え始めているのではないのでしょうか。平和や共存を希求する思考回路と、戦略や防衛を志向する思考回路は相いれることはできません。こうした出来事があると、世界の人々の思考をまでも、後者の戦略や防衛を志向する方向になびかせてしまうのが、戦争の怖さの一つなのかもしれません。

いうまでもなく、現在ロシアによって行われている武力による現状の国境線の変更は、明確な国際法違反なのですが…